

経済・金融
フラッシュブラジル GDP(2024 年 7-9 月期)
— 高成長維持、前年比は 4.0%まで上昇

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

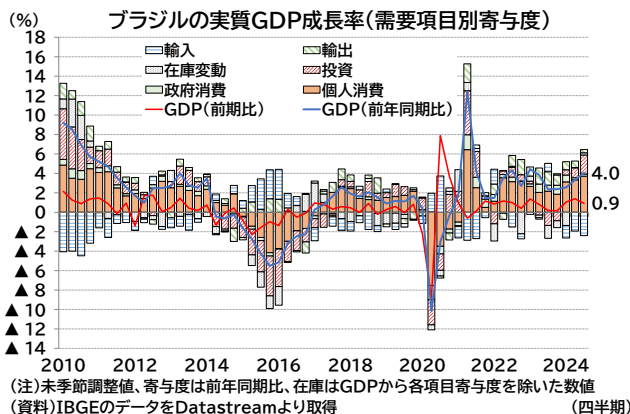
1. 結果の概要: 前期比 0.9%で高成長維持

12月3日、ブラジル地理統計院（IBGE）は国内総生産（GDP）を公表し、結果は以下の通りとなった。

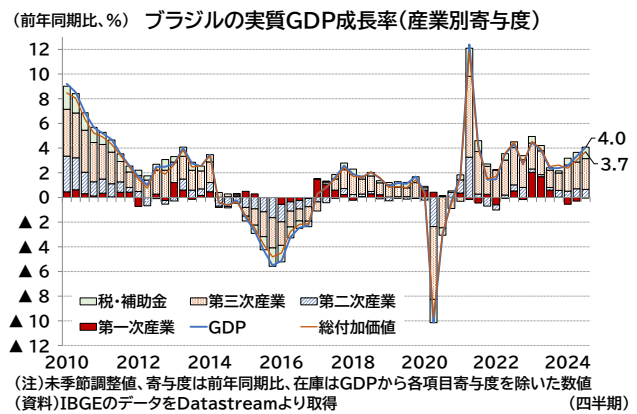
【実質GDP成長率（2024年7-9月期）】

- ・前年同期比伸び率（未季節調整値）は4.0%、市場予想¹（3.9%）を上回り、前期（3.3%）から上昇した（図表1・2）。
- ・前期比伸び率（季節調整値）は0.9%、予想（0.8%）を上回り、前期（1.4%）から減速した。

(図表 1)



(図表 2)



2. 結果の詳細: 輸出は減少したが、内需が引き続き強い

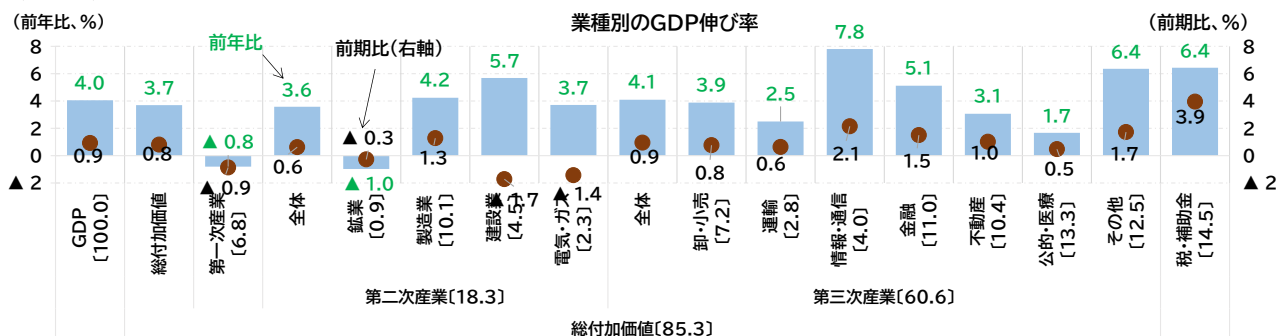
24年7-9月期の実質GDP伸び率は前期比0.9%（季節調整値、年率換算3.7%）となり、前期（前期比1.4%、年率換算5.7%）から減速した。コロナ禍前（19年10-12月期）比では11.2%だった（図表4・5）。一方、伸びのトレンドが見やすい前年比では4.0%と、前期（3.3%）から伸び率が拡大している。

成長率（前期比）を需要項目別に見ると、個人消費が1.5%（前期：1.4%）、政府消費が0.8%（前期：▲0.3%）、投資が2.1%（前期：2.2%）、輸出が▲0.6%（前期：1.5%）、輸入が1.0%（前期：7.3%）で、前期から輸出は減少したものの、内需（消費や投資）の底堅さは維持されている。

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

コロナ禍前との対比では、個人消費が 11.5%、政府消費が 8.8%、投資が 20.5%、輸出が 20.1%、輸入が 21.6%だった（図表 4）。

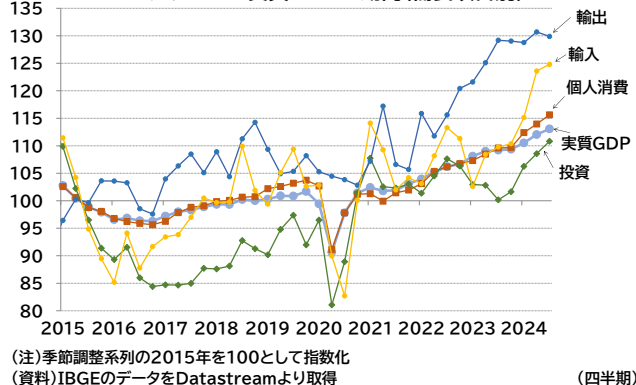
（図表 3）



（注）カッコ内は2019年のGDPに占める各産業の割合、グラフに記載している数値（データラベル）は黒が前期比、緑が前年比の数値
（資料）IBGEのデータをDatastreamより取得

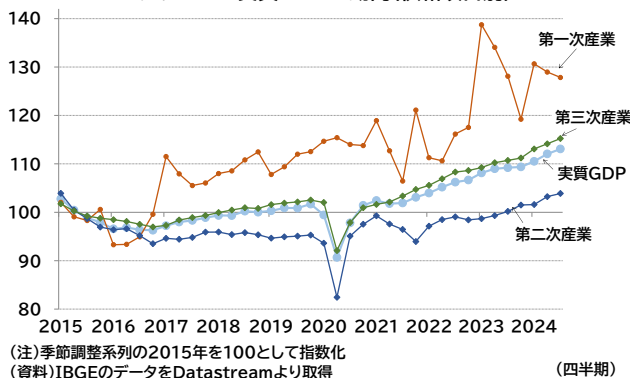
（図表 4）

（2015年=100）ブラジルの実質GDPの動向（需要項目別）



（図表 5）

（2015年=100）ブラジルの実質GDPの動向（供給項目別）



産業分類別に実質GDPの伸び率を見ると（図表 3・5）、第一次産業は前期比▲0.9%（前期：1.3%）、第二次産業は同 0.6%（前期：1.6%）、第三次産業は同 0.9%（前期：0.9%）だった。

より細かい業種では、第二次産業のうち製造業（前期比 1.3%）を除く鉱業（▲0.3%）、建設業（▲1.7%）、電気・ガス（▲1.4%）がマイナスとなった。第三次産業は 4-6 月期に続き安定成長しており、7-9 月期は情報・通信（2.1%）、その他（1.7%）、金融（1.5%）の伸び率が高かった（図表 3）。

7-9 月期の名目成長率は前年同期比 8.0%（前期：7.1%）に上昇した。その結果、名目と実質成長率の差（デフレータに相当）は 3.9%（前期：3.8%）にわずかに上昇している。なお、消費者物価指数（IPCA）では、10 月で前年比 4.76%と中銀目標（3±1.5%）を若干超過、ブラジル中銀はインフレ抑制に向け、9 月に 22 年 8 月以来となる利上げを実施し、11 月にも 2 会合連続となる利上げを実施した（合計 0.75%ポイント引き上げ）。

輸出デフレータと輸入デフレータはいずれも前年比で伸び率が拡大し、交易条件は、交易利得が前期に比べてやや縮小した。

（図表 6）

（前年同期比、%）ブラジルの名目および実質成長率

